

## 第4学年 図工科学習指導案

日時 平成 年 月 日 ( ) 校時  
対象 4年 組 男子 名 女子 名  
場所 図工室  
指導者

1. 題材名 くねくねランドによくこそ

2. 題材目標

- 自由に形を変える針金入り紙紐やビニタイのおもしろさに気づき、工夫して形を変えることができる。
- 針金入り紙紐を組み合わせて立体的な造形を作ることができる。
- 友達の作品の良さや工夫を見つけ、自分の作品に生かしたり、別の工夫を考えたりすることができる。

3. 題材について

本題材は紙紐という線状の材料を利用して立体的な作品作りを行うものである。線的な造形には針金がよく用いられるが、針金の扱いやすさは太さに関係するので、まだ力のない中学年の児童には太いものが利用しにくい。一方、細い針金を利用すると、扱いは簡単になるが量感を出すのが難しく作品が単調になるという欠点がある。そこで本題材では、紐のような太さで細い針金のような扱いやすさのある材料として針金入り紙紐を使うことにした。これは、細いステンレス製の針金に紙を巻き付け紐状にしたもので、太さを保ちながらも加工しやすい材料である。紐が自由に形を変えて固定されるというこの材料は、変形の楽しさを十分に味わうことのできる物である。この針金入り紙紐を使って立体構成を行うことで、形の美しさや組み合わせのおもしろさを追求させたい。

本学級の児童は材料や用具に興味を示し、意欲的に題材に取り組むことができる。ただ、生活経験が関係しているものと思われるが、用具や材料を扱う技能に個人差が大きい。また、発想やひらめきのおもしろい児童もいるが、全体的には発想の広がりややや乏しく、画一的な構想になりがちである。

本題材で扱う紙紐とスチロールの立体造形は、完成図を想定して作業するというよりは、作りながら考え、試行錯誤する課程を経て作品として完成していくという性質の題材である。そこで、この題材の性質を活かし、はじめからイメージを固めるのではなく、作りながら発想が広がるような授業展開をねらいたい。さらに、友達の作品からも制作のヒントや刺激を得られる機会を設定して、自分の作品を他からの関わりの中で作り出し、自分の枠の中だけで考えていかない態度を身につけさせたい。また、適宜、紙紐以外の材料を提示し利用できるようにすることで、より発想に広がりのできるように指導していきたい。

4. 指導計画（全5時間）

第1次 1. 2時 紙紐の変身ー紙紐をいろいろな形に変えよう

第2次 3～5時 くねくねランドによくこそ

（本時・・・1／3時間）

5. 本時の活動

目標 紙紐の形や組み合わせを工夫して、線で構成された立体作品を制作する。  
友達の作品の良さを見つけ、自分の作品に活かす。

準備物 教師 紙紐 発泡スチロール

展開

児童の活動	指導上の留意点・評価
1. 針金入り紙紐の変形について思い出す。	・前時の学習で行った針金の変形についてまとめ、整理する。 ・紙紐の出し方や扱い方も復習する。
2. 紙紐とスチロールを使って、作品を作ることを知る。	・初めて扱う材料、発泡スチロールについて知らせる。
くねくねランドによくこそ	
めあて ・紙紐の形を工夫する。 ・紙紐同士の組み合わせ（形、高さ、大きさ、向き）を工夫する	・形や組み合わせの例をいくつか示し、めあてを具体的に意識しやすくする。 ・紙帯が折れないように気をつけてスチロールに対してゆっくりとまっすぐ挿し込むことを知らせる。 （評）めあてと作品作りの方法を理解できたか
3. 変形させた針金入り紙紐をスチロールに挿してくねくねランドを作る。	・何を作っていいか迷っている子にはとにかく何か挿していくようにさせ、作りながら考えさせる。 （評）紙紐の形や組み合わせに工夫があるか
4. 友達の作品の良いところを見つけ、自分の作品に活かす。	・自由に作品を見て回る時間を設定する。 ・一部を教師が取り上げ、全体に広める。 （評）友達の作品の良いところに気づくことができたか。